

利用推進計画について

- SACLAが目指すべき主な目標は、課題解決型研究開発の実現、ライフ・グリーンイノベーションの推進、国際頭脳循環の拠点形成である。
- 本中間報告は、戦略的な研究推進体制を構築するため、SACLAの供用開始(24年3月)以降の推進方策等について優先順位を付け取りまとめたものである。

戦略的推進に係る基本的な考え方等について

- 「重点戦略分野」及び「重点戦略課題」を設定(別紙参照)し、早期成果の創出と実験手法の確立・開拓を進める。当面は、設置者、登録機関、課題提案者、その他利用者等が一体となり利用研究を推進する。
- 当面、成果非専有(公開)利用を原則とし、重点戦略課題を優先しつつ一般課題も進める。また、開発・利用等に関する技術・ノウハウ等を蓄積し、国際公共財として国際的な研究拠点の形成を図り、世界のサイエンスの発展を先導する。
- 公募は年2回とするが、透明性及び公平性を確保しつつ、状況に応じて臨時公募を行うなど装置の状況や課題の特徴等に応じてある程度柔軟に設定するとともに、運営状況や利用者等のニーズ等を踏まえ適時見直しを図る。
- SPring-8でのノウハウを活かしつつ、利用者視点に立った運営を基本とする。利用経験を有する国内の研究者等は非常に限られており、登録機関は、設置者や課題提案者等と協力することにより、SACLAに特化した支援体制の確立を目指す。また、支援者等の育成は大変重要な課題であり、設置者や大学等とも連携・協力しつつ、人材育成に努めることが必要である。
- 当面、重点戦略課題の研究グループに、産業界の積極的な参加を促し、利用手法や成果を共有していくことで、今後の産業利用の拡大につなげることが重要である。
- 産業界を含む全てのユーザーが参加するコミュニティにより、利用研究の開拓・推進を図ることが望まれ、新規参入がしやすい環境の醸成を図ることが必要である。
- 専用ホームページで成果等を分かりやすく公表し利用者等の習熟に貢献するとともに、登録機関が行う講習会等により潜在的利用者等の掘り起こしを図る。
- 早期成果創出に必要な装置等の開発・整備を最優先し、京速コンピュータ「京」などの高性能スパコンとの連携やSACLAの特徴となるSPring-8との相互利用実験基盤の整備を優先的に進めるとともに、LCLSやEuropean XFELと連携して装置性能の向上等に努める。
- 研究の進捗状況等を踏まえ、検証・評価を行い利用推進計画の見直しを行う。